

平成29年度の決算状況をお知らせします

平成29年度養老町一般会計及び特別会計の歳入歳出決算が、平成30年第3回養老町議会定例会において認定されましたので、決算の概要をお知らせします。

一般会計の決算は、歳入107億6,738万2千円、歳出104億6,887万円となり、前年度に比べ、歳入が1億32万6千円の減、歳出が1億4,396万7千円の減となりました。また、特別会計の決算の合計は、歳入83億5,015万2千円、歳出75億4,366万6千円で、前年度に比べ、歳入が3億7,119万7千円の増、歳出が1億7,612万1千円の増となりました。

平成29年度 養老町歳入歳出決算総括表

(単位：千円)

会計名	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	翌年度繰越額	うち翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支額	
一般会計	10,767,382	10,468,870	298,512	254,697	12,728	285,784	
特別会計	国民健康保険	4,500,903	3,990,397	510,506	0	0	510,506
	簡易水道	30,183	13,176	17,007	0	0	17,007
	食肉事業センター	134,238	134,176	62	0	0	62
	住宅新築資金等貸付	60,110	6,305	53,805	0	0	53,805
	公共下水道事業	357,827	347,228	10,599	0	0	10,599
	農業集落排水事業	31,333	28,184	3,149	0	0	3,149
	介護保険事業	2,906,960	2,697,326	209,634	0	0	209,634
	介護サービス事業	15,173	14,404	769	0	0	769
	後期高齢者医療	313,425	312,470	955	0	0	955
	小計	8,350,152	7,543,666	806,486	0	0	806,486
合計	19,117,534	18,012,536	1,104,998	254,697	12,728	1,092,270	

平成29年度 健全化判断比率および資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、平成29年度健全化判断比率及び資金不足比率を算定しましたので公表します。

●健全化判断比率

健全化判断比率は、いずれも早期健全化基準を下回っており、財政の健全性は保たれていると判断できます。

(単位：%)

項目	健全化判断比率	参 考	
		早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	14.17	20.00
連結実質赤字比率	-	19.17	30.00
実質公債費比率	7.7	25.0	35.0
将来負担比率	90.9	350.0	

※実質赤字額および連結実質赤字額がないため「-」と表示しています。

●資金不足比率

いずれの事業も資金不足額が生じていないことから、経営の健全性は保たれていると判断できます。

(単位：%)

会計名	資金不足比率	参 考
		経営健全化基準
上水道事業会計	-	20.0
簡易水道特別会計	-	
食肉事業センター特別会計	-	
公共下水道事業特別会計	-	
農業集落排水事業特別会計	-	

※資金不足額がないため「-」と表示しています。

用語の解説

- 実質赤字比率 …… 一般会計等に生じている赤字の大きさを、標準財政規模(町の標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模)に対する割合で表したものの。
- 連結実質赤字比率 …… 上水道や下水道など公営企業を含む全会計に生じている赤字の大きさを、標準財政規模に対する割合で表したものの。
- 実質公債費比率 …… 町の借入金(地方債)の返済額(公債費)の大きさを、標準財政規模に対する割合で表したものの。
- 将来負担比率 …… 町の借入金(地方債)など現在抱えている負債の大きさを、標準財政規模に対する割合で表したものの。
- 資金不足比率 …… 上水道や下水道などの公営企業の資金不足を、料金収入等の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すもの。

※より詳しい内容を町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。